猪高の森自然観察だより　４月号

開催日時:2022年4月 24 日(日)
天候:雨　　気温:最低 16.0℃、最高 18.2℃

テーマ：カエルの子と春真っ盛りの花と虫たち
コース：森の集会所　→　塚ノ杁池堤体　→　シダレザクラの里　→　こもれび池　→　森の集会所
残念ながらこの観察会は、雨のため中止とさせて頂きました。
有志による散策会を同コース・同時刻にいたしました。

３月が花々や樹々の動き始めの時期ならば、４月はそれに続き動物たちが動き始める時期になります。園芸がお好きな方々には、困り者のアブラムシやカイガラムシが出始めるころになりますが、それを捕食するテントウムシも活動を始めます。イモムシやケムシの苦手な方も見えると思いますが、その存在もまた生き物のサイクル、命のつながりの一部ととらえていただければ幸いです。

ところで４月は大変変化の激しい季節でもあります。特に今年は最高気温が３０℃に近い日や夏日が連続する日もあり、１週間や１０日で花々が入れ替わってしまいます。下見の際は咲いていても、本番では終わりかけている種類がいくつもあります。機会を見つけて何回か訪れていだだくのがお勧めです。

●アブラムシ・テントウムシ・アリのせめぎ合い

アブラムシを食べるテントウムシの仲間も見受けられるようになります。左は**ナナホシテントウ**幼虫、右はナナホシテントウ蛹です。アブラムシの分泌する甘露を求めるアリ達との、せめぎ合いが見られるようになります。

ナナホシテントウは約２０日で、孵化から成虫になるとの事。幼虫は１日に２０匹、成虫は１００匹以上のアブラムシを食べると言われます。赤と黒の鞘翅の模様は警戒色と言われ、

関節から黄色の苦い汁を出して、捕食者を撃退します。そんな手強いナナホシテントウに擬態している昆虫も多数います。成虫は太陽に向かってのぼって行くから「天道虫」の名がつきました。日本だけでなく、海外でも縁起の良い虫とされているなど、調べていくと逸話が沢山出てきます。きっと、昔から身近だっただろうこの虫を、深く調べてみるのもよいでしょう。

●オオワラジカイガラムシの大発生！

今、猪高緑地で大発生している**オオワラジカイガラムシ**。左はメス（白い丸い形）とオス、右は、オスの集団。メスとオスではこんなに形態が違いますが、昆虫の世界ではよくありがちな現象です。これにも天敵の**ベニヘリテントウ**や**カイガラツヤカスミカメ**がいます。テントウムシやカイガラムシの分泌する甘露が、下にある樹や草の葉にかかり、それに黒いカビが生えると園芸で言ういわゆる「すす病」になります。葉がベトベトした粘っこい液で濡れたようになっていたら、上の木や幹にアブラムシやカイガラムシがいることを疑ってください。

●他にもこんな虫たちが・・

左は、**アジアイトトンボ**のメス（未熟個体）、トンボの仲間は成熟すると体色の変わる種類が良く見受けられます。成熟するともっと黒っぽい色になります。右は、**ナナフシモドキ**の幼虫、この種類はオスが見つかっていません。単為生殖で卵を産み落とします。

左は、**クロハネシロヒゲナガ**。見た通りの名前で、翅を開いても１３～１５ｍｍの小さな昆虫です。ヒゲナガガ科と呼ばれる蛾の仲間です。画像はオスで、メスはもう少しヒゲ（触角）が短く、このヒゲの長さ故に、ひらひらと飛び回っています。春にしか出現しません。食草はイネ科植物や枯葉など、とのことです。

●クモの仲間たちも出始めています

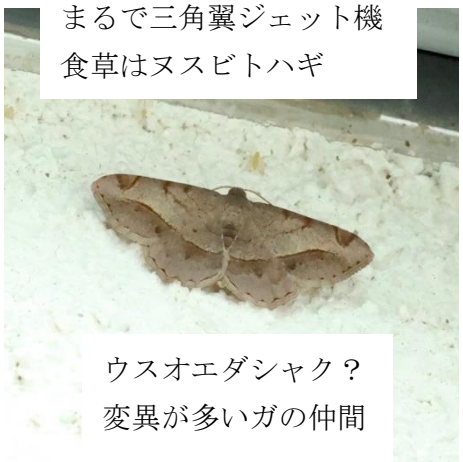
クモの仲間はオスとメスの形態的な違いがとても大きく、種類によってはメスがオスの１００倍近くの重さがあったり、色や模様が異なったりします。上左は**チュウガタシロガネグモ**、腹部の肩にあるふたつのこぶにある黒点が特徴です。上中は**ギンメッキゴミグモ**、頭を上に向けて止まるのが特徴。上右は**ゴミグモ**の網と中央部の「ゴミリボン」と呼ばれる、食べかすや脱皮殻を集めた隠れ場所、ゴミグモはここに隠れています。

●トイレと集会所は虫屋さんにとってはホットスポット！

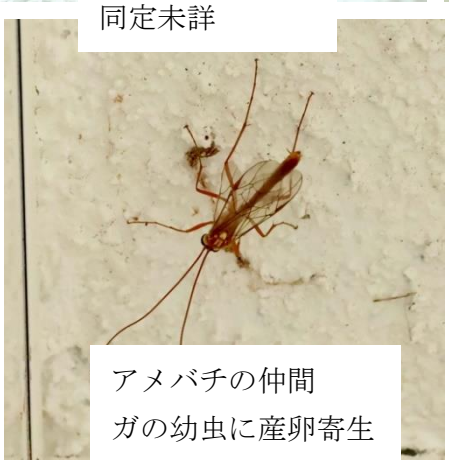
ナミテンアツバ（メス）
まるで三角翼ジェット機
食草はヌスビトハギ

オオバコヤガ？
同定未詳

ゴマフリドクガ
毒あり・要注意



ウスオエダシャク？
変異が多いガの仲間



アメバチの仲間
ガの幼虫に産卵寄生

四季を通して、集会所の壁とトイレの内側・外側の壁は多くの虫がいる場所です。白い壁、軒下、窓枠の窪み。夜に灯りがともされるためもあるでしょう。要チェックポイントです。

●幼虫たちがぐっと増え、鳥たちは・・。

左は**ヤブキリ**（？）の幼虫、右は**ミノウスバ**（マダラガ科）と呼ばれる蛾の幼虫。春は、いろいろな種類の虫たちが孵化もし、その総数は熱帯を上回ります。夏鳥たちはそれを目的に渡り、子育てを始めます。

●カラスノエンドウ・スズメノエンドウ・カスマグサの見分けるポイント

４月の上～中旬頃に上記の３種類のエンドウの仲間がいっせいに咲き始めます。見分けるポイントは・・

スズメノエンドウ

スズメノエンドウの莢

カラスノエンドウ

・カラスノエンドウ・・**莢**（さや）は３～５㎝。種が５～１０粒入る。花は赤紫色、葉柄の根元に花はつき、花柄はなし。

・スズメノエンドウ・・**莢**は１㎝以下。種は２粒。花柄の先に３～７個の花を付ける。花の**旗弁**（きべん）（*）**に模様なし**。

・カスマグサ・・・・・莢は１～１.５㎝。種は３～６粒。花柄の先に普通２個の花、旗弁に赤紫色のすじ模様がある。カスマグサの名は「カ」ラスノエンドウと「ス」ズメノエンドウの中「間」のような姿をしていることに由来します。

*旗弁・・マメ科の仲間の花は「蝶形花（ちょうけいか）」と呼ばれ、正面から見た時に上部中央の花びらを指します。

●ハルジオンの見分けるポイント

よく似た花にヒメジョオンがあります。花の時期は、すこし遅れますが、両方の種類が重なるときもあります。

ハルジオンの特徴は

・蕾が比較的垂れ下がる（画像左）・舌状花（外側の細い花びら）は細く 150～400 個（ヒメジョオンは 100 個前後）（同中）・葉は基の部分が張り出して茎を抱く（同右）

・茎が中空（これは花を切らなくてはいけないのでなるべく避ける）

などがあります。よく見られる花ですので、確かめてみましょう。

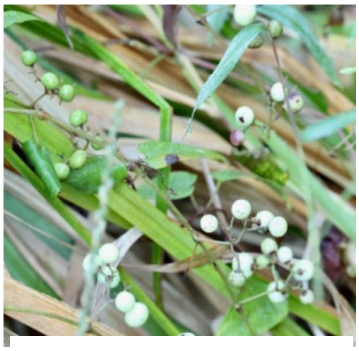
【スズメの名が付く草には他にもいろいろあります】

季節は春だけではありませんが、スズメの名が付く草を列挙してみました。小さくて如何にもスズメが使いそうな草や小ささそのものを表したものと思われます。

スズメノタマゴ
別名：メダケの赤衣病

スズメノカタビラ

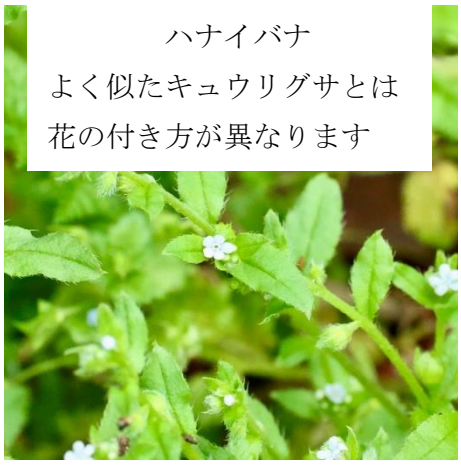
スズメノヤリ



スズメウリの実（秋）

スズメの名が付く草には他に「スズメノテッポウ」「スズメノヒエ」「スズメノトウガラシ」「スズメノハコベ」「スズメノオゴケ」「スズメガヤ」「スズメノチャヒキ」などがあります。スズメだけでなく、カラスもきっと沢山あると思いますが、それは又、次回にしましょう。

●４月は花も動物も視るものが沢山あります。



ハナイバナ
よく似たキュウリグサとは
花の付き方が異なります

アカメガシワ
新芽の赤い色は紫外線を防ぐ
ためという説があります。

キランソウ
別名：ジゴクノカマノフタ

セイヨウジュウニヒトエ
園芸種

ミヤコワスレ
園芸種

シラユキゲシ

カジイチゴ

ナガバオモダカ
外来種

ウスノキ

タカノツメ（蕾）

キツネノボタン

カマツカ

アズキナシ

コマユミ

ユキヤナギ（実）

ヒメコウゾ

ホソバオオアマナ

ハハコグサ

コメツブツメクサ

カキドオシ

ナズナ（実）

フラサバソウ（実）

コウゾリナ

トチノキ

ハリエンジュ（蕾）

ここまで来て、気が付きませんか？花の色が白や黄色が多いのです。ポリネーター（花粉を運ぶ動物・鳥や虫など・送粉者）との関係があるようですが、解決してないようで、答えは見つかりませんでした。総説_石井.indd (jst.go.jp)や kiho88-3.pdf (hro.or.jp)など興味のある方は読んでみてください。動物たちも下段のようににぎやかでした。

オトシブミのゆりかご

イセノナミマイマイ

カルガモ

●お勧めの季節の画像２選

左の２枚の写真はこもれび池の**ノダフジ**です。
　左は、４月１５日
　右は、４月２４日
４月は開花の進み具合はこんなにも早い。

これは、**キリ**の花。普通は高所で咲くのでこのような角度からの写真は写せません。塚ノ杁池の堤体の下方から生えているので撮れました。

●外来種のスイレンの無責任な移植の結果です。塚ノ杁池はこんな状況です。

●おまけの番外編です。
左２枚は「**ミミヅク（ミミズク)**」、フクロウ科の鳥と同じ名前のこんな面白い虫がいます。
次回観察会は５月２２日（日）　９：３０～
森の集会所集合です
米お詫びと訂正・・先月号の「コウグイスカグラ」は「シロバナウグイスカグラ」でした。お詫びいたします。